私の行田発見記 2018 秋。『大正ロマンを感じる二つの洋館』

行田市街の新町商店街の奥の路地裏に点在する「旧忍町信用組合店舗」と「長井写真館」は大正10～11 年に建てられた木造洋風店舗(洋館)があります。建設当時は、まさに大正ロマンの時代。竹久夢二を代表とする独特な美人画や、レトロな商業ポスターなど、ノスタルジックな芸術作品。そして、建築分野においても、和洋それぞれの特色が融合した時代でした。この二の洋館はモダンで洒落たデザインの大正時代の雰囲気を良く残す貴重な近代化遺産です。「旧忍町信用組合店舗」はルネッサンス風の木造二階建で屋根と壁面の配色がなかなか瀟洒だ。屋根にはドーマー窓が設けられている。そして「長井写真館」は裏側は傾斜のきつい屋根になっていて、大きな窓から注ぐ自然光を使ったスタジオ。いつまでも、残しておきたい建物です。

私の行田発見記 2018 秋。『行田の洋館』

忍の城下町として知られる行田市は、江戸時代から足袋の製造が行われていたが、明治時代に入ると規模が拡大し、足袋産業へと発展していった。最盛期には全国の足袋生産量の８割を占めていたという。今も行田市には足袋製造と関連の深い建物が多く残っていて、古臭い街並みと共に往時を偲ぶことができる。ただ、城下町特有のいりくんだ道路配置と短冊型の地割のために、表通りに面した建物は少なく、多くの建物は裏通りに立地するので、人目に付きにくいのが残念である。約 100 基存在するという足袋蔵はさらに奥の路地裏に点在する。行田市の中心部を国道 125 号線が東西に横断しているが、市役所付近から大長寺にかけての区間には、看板建築の店舗も数棟存在している。

http://www.geocities.jp/fukadasoft/bangai5/youkan/index7a.html

私の行田発見記 2018 秋参弐。『ぎょうだ足袋蔵ネットワーク』

足袋をしまっておく倉庫”足袋蔵”は明治 32 年ごろから足袋蔵が敷地内に数多く建てられるようになりました。ここ「ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」は行田市駅から直進して、国道 125 号線交差点から、裏手にあります。最近、ようやく、この行田市街の中心地に、この地への「誘導看板」と「歩行者用案内板」が設置され、案内視されるようになりました。これで、安心ですね。

私の行田発見記 2018 秋参拾。『横山呉服店の蔵』

新町通に面して店舗の奥には土蔵(昭和初期の土蔵２階建て)あります。短棚形の敷地に表から店舗・住宅、中庭、工場、足袋蔵、敷地稲荷が列状に並ぶ行田の足袋商店の典型的建築配置が特長です。が惜しくも今年の夏にすべて解体されてしまいました。ただ古くから伝わる「明治 17 年の秋山家店舗の家相図」がこの建物を物語り続けています。

私の行田発見記 2018 秋参壱。『保泉蔵』

保泉蔵は明治 42 年の土蔵(前蔵)、大正 5 年の大型の土蔵、昭和元年の大谷石の店蔵(L 字形の店舗併用住宅)、次いで昭和 7 年に一番奥の石蔵が、次いで東側にモルタル蔵(新蔵)が建設され、西側の蔵の間が塗り壁で繋がれて、この蔵並びが完成しました。足袋産業の発展とともに拡大した行田の歴史そのものです。「蔵めぐり」には一部を公開し、瀬藤貴史さんによるアート展が開催されました。http://blog.livedoor.jp/tabigura/?p=4

私の行田発見記秋 2018。『ぱっとわかる案内板』

行田市は日本遺産のストーリーや位置図、写真等を掲載した内容・説明板、個別の説明板歩行者用案内板などを設置している。また、誘導案内板は車で訪れた観光客が、足袋蔵めぐりの駐車場を迷わず利用できるように工夫したものです。

私の行田発見記秋 2018 弐九。『WOaW House』

足袋の町、行田で見つけた変わりデザインの足袋の店。アートと街の融合を目的とした新しい空間 WOaW House(ワーオハウス)です。とっても身近な「捨てるもの」を使ったデザイン。昔から日本の足もとを支えてきた行田足袋をゲットできます。アートギャラリーとアトリエを兼ね備えたアート空間と一緒に楽しましょう。ここにはきね足袋がありました。

https://www.woawhouse.com/

私の行田発見記秋 2018。『足袋被覆商業名簿』

その数行田市内で 200 を超える足袋会社の商標(足袋被服通信 112 号:昭和 32 年発)。各社自慢の看板です。行田の足袋業者は、それぞれの自社ブランドを持ち、それを商標として登録していた。工夫をこらしたデザインが多く見受けられる。「昭和 29 年に刊行された行田足袋メーカーの商標便覧」による。

http://hifu-koworks.com/gyoda.tabimarks.ver10/index.html

私の行田発見記 2018 秋弐八。『栗原医院』

行田忍城の西北角、二階櫓跡の敷地に大正時代に建てられたハイカラな病院建築がある。奥の増築部分は、既存部分に合わせて外壁を下見板で仕上げ、まちの歴史や景観へのさりげない気配りが感じられる。さらに、建物とそれを取り巻く屋敷林が一体となって独特な雰囲気を醸し出し、まさに「アニメのような世界」を想起させる。因みに、第二回「浮き城のまち景観賞」を受賞している。

私の行田発見記秋 2018 弐七。『行田足袋コレ』

『陸王』のロケ地としても一躍有名になった埼玉県行田市。この夏、日本一、いや世界一の足袋生産地として、フランスで足袋のコーディネートショーが開催されました。日本の和装文化の魅力を広く発信してくれました。そして、この秋、2018 年 11 月 11 日、行田商工会議所にて『行田足袋コレ』が開催されます。どのような作品が登場するか楽しみです。

http://www.gyoda-tabi.com/

私の行田発見記秋 2018 弐六。『旧．島田医院』

　行田市の水城公園の西端から南西へ、この建物は大正新道沿いに、昭和６年竣工の木造二階建。寄棟造り屋根の頂部のかわいらしい避雷針が目につきます。この付近は古くは忍馬車鉄道の路線でした。昭和初期の面影が漂っています。

私の行田発見記秋 2018 弐五。鰻料理の『満る岡』

　行田には田山花袋の”田舎教師”に登場の『満る岡(まるおか)』がある。その周辺の川は道路になり、川辺の柳の木も、対岸の桜の木も今はない。"柳の湯"という銭湯も料亭"魚七"も今はない。柳の枝が川面にゆらゆらし、川に流れる桜の花びらで真っ白になる光景は、今は思い描くことしか出来ない。がこの料亭 1875 年創業以来、鰻料理の伝統を守りつつ現在まで営業している。嬉しいね。”第一回浮き城のまち景観賞”を受賞している。

https://www.city.gyoda.lg.jp/…/10/kei…/ukishiro_keikan.html…

私の行田発見記 2018 秋弐四。『行田窯』

　行田市には、昭和初期に「穂国足袋」の商標で知られた新井八郎商店であった倉庫が今もあります。この商店の手を離れた後にこの場所に曳家され、東半分が取り壊されましたが、現存する数少ない木造の足袋蔵として貴重な存在です。そして、今まで陶芸工房として活躍していました。今年の４月の”ぎょうだ蔵めぐりまちあるき”で内部公開していただきました。しかしこの工房もなく閉店とか。誠に残念ですね。

https://ameblo.jp/tokiimochan2/entry-12368966560.html

私の行田発見記 2018 秋弐参。

　昨年、足袋蔵のまち行田が”日本遺産”に認定されました。県内初。史跡 4 件、古文書 4 件、建築物 26 件、有形民俗文化財 2 件、無形民俗文化財 4 件の計 39 件です。そして、今年、平成 30 年 5 月には"行田音頭"など 6 件が追加されました。市は動画やウエブ、パンフレットなどを作成して活性化しているそうな。貴重な情報源、早く知りたかった。

https://japan-heritage-gyoda.jp/about/

私の行田発見記 2018 秋弐弐。青柳スクールメイトの『店舗兼住宅と土蔵』

行田国道 125 号線に面して店舗とその奥に二棟の蔵がありました。この建物は道路拡張のために切り取られ、表通りからは見つけにくいものでした。そして残念ながら今春にはもろもろ、取り壊されてしまいました。短冊形の細長い土地に 1 列に並んだ、店舗、庭、倉庫。当地独特のスタイルがまた一つ消えました。残念。

私の行田発見記 2018 秋弐壱。『まちづくりミュージアム』

　行田はなぜ足袋蔵のまちになったのか？ポイント１『川のあるところに人の営みあり。行田に利根川と荒川があり、肥沃の土、人や物を乗せた船を運び、時には防衛の役割を果たしたこと』。ポイント２『姿を現した肥沃な土地。河川による肥沃な土地を利用し、利根川流域の綿の栽培が始まつたこと』だぞうだ。ミュージアム受付当番になって知りました。当館の行田の日本遺産の紹介パネルより。

私の行田発見記 2018 秋弐拾。『栗原家のモルタル蔵』

　この間口６間、奥行３間の木造モルタル蔵２階建ての足袋蔵は"福力足袋"と"双福足袋"の商標で知られた栗原正一商店が、昭和 28 年に館林市の農家の米蔵を購入して、この地に移築したものです。戦後に移築・転用された数少ないモルタル造の足袋蔵のひとつで昭和当時のの行田の足袋産業の隆盛を物語る足袋蔵と言えます。と壁の新しい案内板に書いていました。行田では最も美しいモルタル蔵ですね。

私の行田発見記 2018 秋壱九。『行田音頭』

行田音頭は、昭和 9 年に東京音頭でも知られる作詞・中山晋平、作曲・西條八十の当時日本を代表する２人によりつくられました。当時は世界恐慌の影響を受け世の中が不景気で行田の町も職を失った人がたくさん出ました。暗く沈んだ行田の町を明るく生きがいのある町にするために、歌詞には行田の名称や当時の風景が盛り込まれています。平成 30 年 5 月 24 日に行田市の日本遺産ストーリーの構成資産に追加認定され、１０月は「行田音頭」ゆかりの地を訪ねる旅も企画されています。

私の行田発見記 2018 壱八。『長井写真館』

大正 11 年に建てられた行田のレトロな建物。現存する木造の洋館"フチイ写真館"です。折しも、竹久夢二を代表とする独特な美人画や、レトロな商業ポスターなど、ノスタルジックな芸術品など、素晴らしい”写真芸術”が生まれた時代でした。モダンで洒落た建物デザインは、まさに『大正ロマンの時代を感じる遺産』そのものです。その後、井写真館へと変わり現在も写真館として使われています。

私の行田発見記 2018 秋壱七。『足袋生活』

江戸時代から続く“足袋のまち"行田から足袋の魅力を未来に！和服が普段着だった時代には“国民的な履物”だった足袋。テレビドラマの舞台となったは足袋の出荷日本一"行田市"です。そして“足袋ブーム”に沸く地元では、伝統の足袋産業を盛り上げようと足袋の魅力を将来に向けて発信しようという取り組みがは始まりました。小学校の児童に足袋を配り、１年間学校で足袋生活を送ってもらうことにしています。

私の行田発見記 2018 秋壱六。『忠次郎蔵』

行田市内の”蕎麦屋”で人気の忠次郎蔵。毎年開催の「昔体験セミナー」では、近くの小学生達がお店の方のご指導のもと，”そば打ちでなく、うどん打ち”を体験しています。うれしいですね。いつまでも健やかに、続いてほしい経験ですね。因みに、「忠次郎蔵」は蕎麦屋として活用され、平成２０年には蕎麦教室卒業生らを中心に、足袋蔵ネットワークから独立して、新たに NPO 法人「忠次郎蔵」を設立し、現在に至っています。

http://chujiro.chu.jp/history/index.html

私の行田発見記 2018 秋壱五『古蛙庵』

古蛙庵は、佐野屋が喜永 3 年に棟上げした土蔵を譲り受けて、明治 35 年にこの地に曳家したもので、今はは私的な書斎兼民芸館として活用されています。北側の土蔵は、明治 45 年のものしたです。いずれも明治時代のどっしりした森伴造商店の足袋蔵です。今年の「行田まちあるき蔵めぐり」で蔵の中を拝見。とにかく中がすごい。https://japan-heritage-gyoda.jp/

私の行田発見記 2018 秋壱四。『行田市郷土博物館』

行田市郷土博物館は、忍城の本丸跡地にある博物館です。多くの実物資料が展示されており、古代から現代にいたる行田の歴史と文化を学ぶことができます。このたび、市民大学の仲間とその後の”行田の日本遺産”の探索に訪問しました。同館には、昨年認定の行田の日本遺産に加え、今年度追加の認定遺産の紹介、VTR 紹介がありました。ありがたいですね。行田市内では全体に行田を理解できる場所です。

私の行田発見記 2018 秋壱参。『もうひとつの奥貫蔵』

行田天満の新町通り裏に白壁の土蔵があります。この蔵は奥貫忠吉商店が大正から昭和初期に建てられた足袋蔵で、足袋産業が盛んなころを甦らさせる”もうひとつの蔵”のようです。そして、表通りに面した蔵は蕎麦・創作料理の店「あんど」で親しまれた蔵です。これら奥貫蔵家の土蔵は行田の日本遺産のひとつで、さらに今年度にはもうひとつ追加登録されたようです。

https://ameblo.jp/tokiimochan2/entry-11613813189.html

私の行田発見記 2018 秋壱弐。『大澤家住宅旧文庫蔵・住宅・土蔵』

　あの、行田市唯一のレンガの大澤蔵。大正 15 年に完成した大澤家の書類などの保管のための文庫蔵です。7 代目の大澤専蔵が”レンガ造りの蔵”にこだわったとされています。行田唯一の鉄筋コンクリート組煉瓦造りの蔵で、黒っぽい煉瓦と白漆喰の対比がモダンです。そして、これまで旧文庫蔵のみが構成資産でしたが、新たに住宅と土蔵が日本遺産に追加認定されました。

私の行田発見記 2018 秋壱壱。『草生蔵』

この蔵”金樂足袋”等の商標で知られた金樂足袋株式会社が、明治 43 年に住宅とともに建設した足袋蔵。市内で最も古い石造りの足袋蔵だと思われますが、昭和初期に建て替えられている可能性も指摘されています。現在は所有者が草生家に変わり、倉庫として使われています。コンクリートの水平ラインが印象的な 2 階建ての行田最古の石蔵だとさ。よその御家。近づくことも、中を拝見することはかなわない、黙って静かに聳えてます。

私の行田発見記 2018 秋そのＸ。『田んぼアート』

　様々な稲を使って描く「田んぼアート」は一種の地上絵。今年は”行田市の田んぼアート”×”ナスカの地上絵”のコラボ。ナスカの地上絵は代表的な「ハチドリ」とダイナミックに翼を広げる「コンドル」、さらに行田市のシンボルである「古代蓮」を咥え、『行田市』のさらなる飛躍の願いを乗せて、壮大なスケールで創作されています。

私の行田発見記 2018 秋そのⅨ。『足袋蔵まちづくりミュージアム(栗代蔵)』

この蔵、栗原代八商店が明治 39 年日露戦争後の不景気で、仕事が欲しがっていた職人に造らせたと伝えられている足袋蔵です。今は『足袋蔵まちづくりミュージアム』として皆様に親しまれ、毎年の『ぎょうだ蔵めぐりまちあるき』の受付会場です。そして今年はこの蔵の二階で”大泉太鼓(和楽器演奏)”がありました。和装文化のまち、行田ならではの催しですね。

私の行田発見記 2018 秋Ⅷ。『イサミスクール工場とこはぜ屋足袋』

昨年放送の『陸王のこはぜや屋』として登場しました『イサミスクール工場』です。『イサミ足袋』がイサミスクール工場の商標ですが、放映当時には『こはぜ屋足袋工場』の看板を特別に用意したようです。おかげさまで行田の足袋は”こはぜや屋”ともども有名になりました。テレビ力ってすごいものですね。本日も、イサミスクールの正門は陸王ファンで集まっていますね。

http://locatv.com/rikuou-location04/

私の行田発見記 2018 秋そのⅦ。『笠原家住宅』

　行田市街の郵便局並びの、ちょつと奥にある古い建物、これが笠原家の住宅です。一風なにも気づかない処ですが、二階の木造の引き戸、戸袋には古き、親しみを感じます。この構造行田の特長なのでしょうか。因みに、2018 年に行田の日本遺産に追加されたようです。

私の行田発見記 2018 秋そのⅥ。『鯨井家倉庫』

　敷地内中央部にあるこの倉庫、現存する市内唯一の戦前の鉄骨コンクリート造の足袋蔵です。が分かり難い。そして、行田市が表示版を設置してくださいました。ありがたいです。かつて、苔むす倉庫として紹介した記憶がありますが、今は堂々とした行田の日本遺産です。

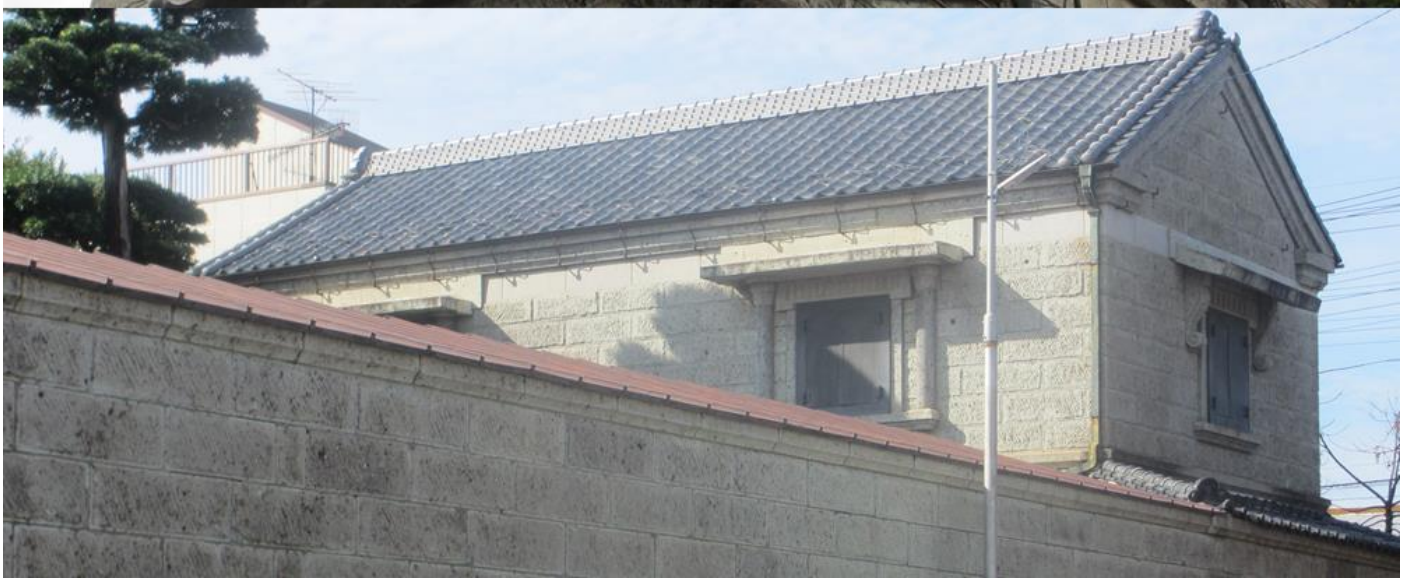
私の行田発見記 2018 秋その五。『着物の仕立て屋(牧野本店)』

“足袋とくらしの博物館”で知られる、かっての足袋工場と店舗。ここに最近、着物のお店がオープンしました。プロの和裁師の仕事を目の前で見学できるお店です。店のコンセプトは着物ファンと和裁師のマッチング。”和装文化の足元を照らす行田”ならではの始業ですね。因みにこの建物は「カ弥足袋」の商標で知られた牧野本店の店舗兼住宅です。

http://tatemono.art-saitama.jp/archives/1513

私の行田発見記 2018 秋その四。『楽屋足袋蔵』

楽屋はガクヤ株式会社のブランド名。足元をより美しく引き立てるための”足袋づくり”だけでなく、行田天然温泉「古代蓮物語」、高齢化社会を支える福祉サービスの「まきばの温泉」などさまざまなこと挑戦しています。楽屋の"足袋蔵"が日本遺産に追加されたようです。



私の行田発見記 2018 秋その参。『Vert Cafe(旧忍町信用組合店舗)』

　かっては新町自治会の集会所として使われていた旧忍町信用組合店舗。この店舗 2018 年の春に、行田市街から静かな水上公園の畔に移築。そして今秋コーヒーハウスとして登場しました。この建物。大正時代のルネッサンス風の木造二階建。屋根と壁面の配色がなかなかいい。因みにお店のヴァート（vert）とは、紋章学で緑色を表す色名。この建物カラーですね。でも"大正ロマンの香り"までは移築できなかったのが残念。

私の行田発見記 2018 秋その弐。『大澤久右衛門家住宅・土蔵』

　分かり難いこの建物。実は昨年に行田の日本遺産になった現存する行田"最古の土蔵"です。その後、行田市が表示版を設置してくださいました。ありがたいです。がどの建物かは相変わらず分かり難いですね。因みに、表示版は蔵の種類によって、色分けしているとか。

http://tabikappa.blog55.fc2.com/blog-entry-4857.html

「大澤久右衛門」家の蔵造り
江戸時代の行田町は幾度かの大火に見舞われましたが、
その中でも弘化**3**年**(1846)**の大火は記録的なものでした。
この大火の火を止めたのが、この地のこの建物です。

私の行田発見記 2018 秋その壱。『HANA HOTEL』

　2018 年 6 月にオープンしたばかりの、行田天然温泉 ハナホテル行田。奥隣には行田の料亭"彩々亭”があります。この料亭昭和初期には「足袋御殿」と呼ばれ、地域の迎賓館としての役目を果たしたそうな。この平成末期のホテル、行田らしさと無関係ことが惜しい。

https://www.booking.com/…/…/gyoda-natural-onsen-hana.ja.html